3．個別項目の検討

資料　3

1.基本理念

富山大空襲をはじめとする戦災の記憶を風化させることなく、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ継承する。

このため、富山大空襲に係る資料にとどまらず、戦時下の県民や子どもの暮らしや体験、地域に残る遺構、戦後の復興などを含めて地域の歴史として捉え、収集・保存、展示・活用を有機的に連携させ、戦災から復興までの歩みを未来へつなぐ。

また、県民一人ひとりが平和の尊さを胸に刻み、学び、語り、次の世代へ伝えていくことのできる契機とする。

保存基盤
（資料を適切に収集・保存する基盤）

有機的に連携

活用基盤
（未来へつなぎ、学びや理解を広げる基盤）

収　集

失われる前に、記憶と資料を残す



- 収集対象と基準を明確化
- 資料の所在把握と計画的な収集
- 調査・収集・寄贈の仕組みづくり

保　存

適切に保存し、未来へ引き継ぐ



- 長期的な保存場所、保存体制を整備、確保
- 資料の整理・管理、デジタル化
- 遺構等の把握、記録保存

展　示

いつでも触れ、学び
考えられる場を確保する

常設展示施設を設置



- 富山大空襲から戦後復興、現在までを一体的に伝える展示
- 実物資料や証言、映像等を活用した五感に訴える展示
- 体験型、参加型の展示手法の導入

活　用

学びを広げ、次世代への継承につなげる



- 学校教育、平和学習との連携
- 語り部や遺構等を活用した学習機会の充実
- デジタルアーカイブ等による情報発信

運営体制

- 県・富山市で、継続的な運営等に向けた役割分担について協議し、運営体制を構築する。
- 民間団体等との連携体制の整備

3．個別項目の検討

2.収集　～　失われる前に、記憶と資料を残す　～

新たな資料の収集については、展示・活用の視点から、資料の対象（種別・時期等）や方法（現物保存、アーカイブ等）を明確にし、施設整備を待たず、先行して進める。

①収集対象

・富山大空襲その他県内の戦災に関する資料
・戦時下の県民や子どもの暮らしを伝える生活用品・衣類、配給関係資料
・戦争・戦災に関する遺品、戦争・戦災体験者の証言、インタビュー映像、音声
・戦後復興の歩みを伝える資料　等

②収集基準

・富山県との関連性が高いこと
・戦争・戦災の実相を伝える資料的価値や希少性が高いこと
・資料の由来や情報の確かさ、記憶との結びつきが確認できること
・保存状態、既存資料との重複等を総合的に勘案すること

③収集方法

・県民への資料提供の呼びかけ（「処分前に相談」など相談しやすい情報発信）
・市町村、歴史資料館、関係団体等を通じた所在把握
・受け入れ時に、使用者・年代・使用場所・由来・継承経緯等を聞き取り
・現物保存が困難な場合は、デジタル化などによる記録保存



【これまでの委員意見】
・非常に時間がない。資料・遺跡・体験談を掘り起こす必要
・資料だけでなく、記憶・場所・人・語り・エピソード等の背景情報も一体的に収集・記録する必要
・富山市だけでなく、県全体として記憶を残す必要

3．個別項目の検討

3.保存　～　適切に保存し、未来へ引き継ぐ　～

貴重な資料について、将来に引き継いでいけるよう、専門的知見も活用し、より適切な保存環境を確保する。

①保存環境の確保

・湿度管理、防虫等、資料の劣化を防ぐ保存環境の整備
・将来の資料増加も見据えた収蔵スペースの確保
・専門的知見を持つ人材による保存管理

②整理・管理

・資料を体系的に分類・整理し、目録や台帳等を整備
・資料名称、年代、使用者や寄贈者、由来、証言やエピソード等の基本情報を可能な範囲で一体的に記録
・劣化状況を定期的に確認し、必要に応じて補修・修復等の実施
・貸出、展示、修復等の履歴等を把握できる管理方法を構築

③デジタル保存・情報発信

・計画的に資料、証言音声・映像等をデジタルアーカイブ化
・劣化の激しい資料や取扱いが難しい資料は、優先的にデータ化
・保存している資料・データの内容を分かりやすく情報発信

④ゆかりの場所・遺構などの記録・保存

・所在地、現況、戦災との関係などの調査・検証
・爆撃中心点などのゆかりの場所や遺構などに説明版を設置



【これまでの委員意見】
・他地域の資料館との交流を通じて、保存資料に係る情報交換も必要
・資料は保存するだけではなく、活用と一体的に考える必要
・資料の継承や教育・普及には、学芸員など専門的知見を持つ人材の確保育成が必要

３．個別項目の検討

４.展示　～　いつでも触れ、学び考えられる場を提供する　～

常設の展示施設を設置し、富山大空襲をはじめとする戦災の歴史を伝え、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に継承する。

①展示内容

- 戦争に至るまでの時代背景や当時の社会情勢
- 戦時下の県民や子どもの暮らし
- 戦災から戦後復興、現在までの地域の歩み
- 富山大空襲を中心とする戦災被害の様子
- 出征した兵士や残された家族の暮らし、思い
- 来館者の感想や平和への思いの共有

②展示方法

- 実物資料、写真や映像、ジオラマ模型などを効果的に活用し、分かりやすく伝える
- 子ども向けの解説やクイズ、ワークシートなど学べる工夫を取り入れる
- 触れる資料、音声、映像、VR・AR等を活用し、五感に訴える体験型展示
- 解説員による案内や説明
- 来館者が自ら考え、平和への思いや問を共有できる参加型展示



③展示環境

- 学校や団体見学等にも対応可能な一定程度の広さ
- バリアフリーへの配慮
- 展示替え、企画展示のほか、学習や語り部・学芸員等による講座にも対応できるスペースの確保
- 展示空間の区分など、来館者の心理的負担への配慮
- 交通アクセスや戦災の歴史とのつながり、資料の保存・管理、継続的な運営を考慮した立地・施設環境

【これまでの委員意見】
- 子どもたちが戦災資料をいつでも見て学べる環境が必要
- 戦災から復興、現在までを時系列で一体的に伝えることが重要
- 報道機関保有の過去の映像・音声等についても、提供・活用について協議してはどうか
- 常設展示の新設だけでなく、既存の県有・市有施設の活用も選択肢として、複数の候補を検討してはどうか。

3．個別項目の検討

5.活用　～　学びを広げ、次世代への継承につなげる　～

子どもや県民向けの学習・啓発等に展示施設や資料を活用し、学びと継承の輪を広げる

①学校での活用

・県内の児童生徒が、平和学習や郷土学習、探究学習の中で戦災資料に触れ、学べる機会を確保
・教育委員会や学校と連携し、資料貸出しや出前授業も含め、継続的に利用される仕組みづくり
・校外学習等での活用事例を示し、学校利用を促進

②地域での活用

・地域団体等への活用の推奨
・市町村、図書館、博物館、公民館等における継承活動への貸し出しや展示
・語り部や関係団体等が行う講演会などの継承活動への貸し出し
・展示施設とゆかりの場所や遺構を巡りながら、地域の歴史を学ぶ取組での活用

③継承の担い手育成への活用

・子どもや若者による、戦争・戦災の歴史や当時の暮らしを調べ、伝える活動での活用
・次世代の語り手や継承活動の担い手を育成する学習・研修等での活用

【委員意見】
・学校教育の中で活用し、子ども達が見学や体験を通じて学べる機会が必要
・学校や地域での活用に向けて、解説、証言音声、写真、学習での活用例などを組み合わせた教材セットの作成も検討してはどうか
・戦災資料の保存や勉強会等を、子ども達への教育と次世代への継承につなげることが必要
・話を聞いて終わるのではなく、自分たちに何ができるかを考え、戦争を自分事として捉えることが重要